

中央アルプス木曾駒ヶ岳における気温とハイマツ年枝長との対応関係 A relationship between air temperature and shoot elongation of alpine dwarf pine at Mt. Kisokomagatake

浜田 崇^{1*}, 尾関雅章¹, 飯島慈裕²

HAMADA, Takashi^{1*}, Masaaki Ozeki¹, Yoshihiro Iijima²

¹ 長野県環境保全研究所, ² 海洋研究開発機構

¹Nagano Environmental Conservation Research Institute, ²JAMSTEC

日本の山岳地では長期間にわたる気象データはほとんど存在しない。しかし、さまざまな観測データや代替データを結合することで、過去から現在における気候を復元することが可能となる。

本研究では、中央アルプス木曾駒ヶ岳において得られたハイマツの年枝の年々の長さと同年の7月の平均気温との対応関係を、1980年から2009年までの期間において調べた。その結果、両者には正の相関 ($r=0.5$) がみられた。このことから、ハイマツの年枝長の計測により、夏季の気温をある程度復元できる可能性が示唆された。今後は、年輪等の他の代替データによる山岳地における気候の復元の検討を行いたい。

キーワード: 山岳地, 気温, ハイマツの年枝長

Keywords: mountainous area, air temperature, shoot elongation of alpine dwarf pine